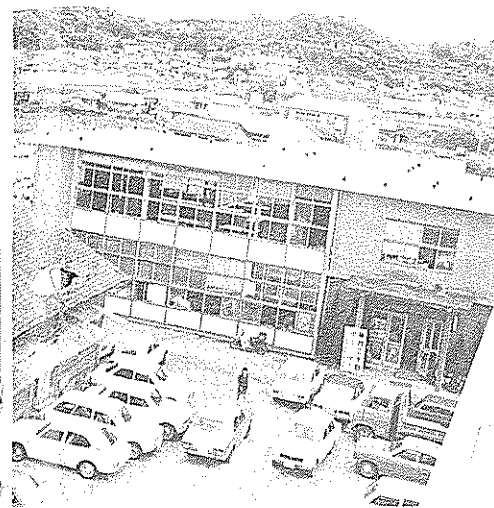
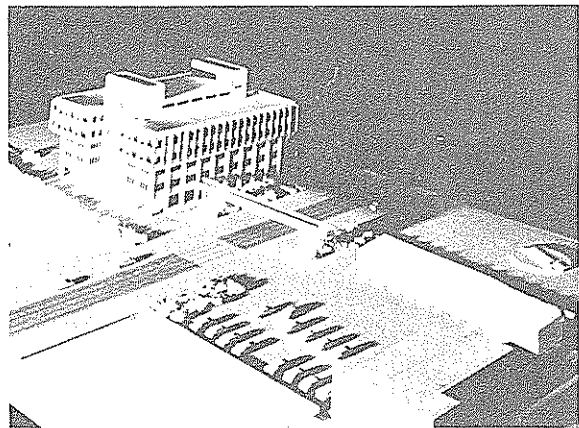


木造の本館に鉄筋あり、フレハブあり、増築・増築をつづけた旧庁舎。朝日生命の屋上から西を望む。



サヨウナラ旧庁舎



旧庁舎も鉄筋造り2階建ての会議室をのこしてとりこわされ、駐車場と車庫に変身する日も近い。

跡地は駐車場に変身



〔上〕主のなくなった屋内。元の税務課
〔左〕すきま風とストーブの熱がチャンホン。一日中蛍光灯をつけて、なお暗い室内、いまはなつかしい思い出となった。元の市民課。



市は、町村合併促進法に基づいて、昭和34年10月1日、実質、嶺南15町村が合併して新興田園都市として発足。

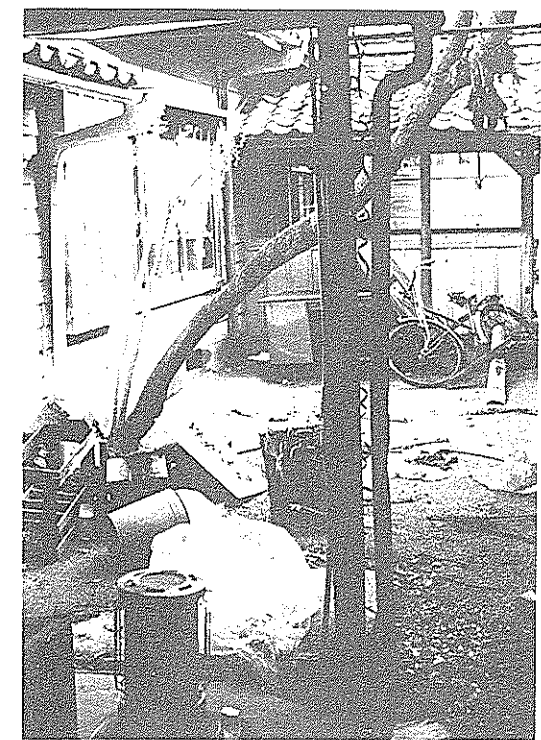
市の中心部である東崎1.355番地の1の旧県地方事務所跡を借り入れて事務所としました。

その後、国民健康保険・国民年金など新しい行政事務が増。合併当時の職員328人も、現在では504人（保母なども含む）にまでふくれあがりました。

このため、事務室も手狭になるばかり、周辺の用地購入や増築・増築を重ね、敷地面積3,051平方メートル（うち県有1,894平方メートル）建物の延面積1,787平方メートル（うち県有775平方メートル）までになりました。が、それでも手狭のため、水道局教育委員会を旧野田村役場跡に分散

そのうえ、県から借り入れた木造瓦葺き平家建ての建物も、第二次大戦中、物資の不自由なとき建築されたもので老朽化がはげしく小修繕では間にあわず、雨もりがするなどどうにもならぬ状態になっていたものです。

こうして14年あまりの歳月、市民センターとして親しまれてきた庁舎も、その役目を終り、駐車場に変身する日も、まぢかになっています。計画では、鉄筋2階建ての会議室のほかは全部とりこわし整地・舗装、西の端には約1,500平方メートルで車庫がたてられます。



主のなくなった庁舎、木構だけが通りぬけていた。